

# カーター・ディクソン『貴婦人として死す』読書会

2016年4月23日(土)

## ○作者紹介

カーター・ディクソン Carter Dickson(1906/11/30～1977/2/27)

アメリカ、ペンシルヴェニア生まれ。本名ジョン・ディクソン・カー。1930年に予審判事アンリ・バンコランを探偵役とした『夜歩く』を発表。以降ギデオンフェル博士シリーズ『帽子収集狂事件』『曲った蝶番』、ノンシリーズの『皇帝のかぎ煙草入れ』(以上カー名義)、ヘンリ・メリヴェール卿シリーズ『黒死荘の殺人』『ユダの窓』など、オールタイムベスト級の傑作を次々とものし、熱狂的な読者を獲得。不可能犯罪の巨匠と呼ばれる。(巻末より)

☆ポイント……ジョン・ディクソン・カー、オールタイムベスト級の傑作、不可能犯罪の巨匠

## ○ヘンリ・メリヴェール卿シリーズについて

ヘンリ・メリヴェール卿 Sir Henry Merrivale(1871/2/6～?)

『「余の出生はH・Mはその場に似つかわしい勿体ぶった口調で話し出した。「一八七一年二月六日、サセックス州グレート・ユーボロの近傍クランリー・コートに於いてである』』

(『殺人者と恐喝者』より)

『並外れたものぐさで、無類のお喋り好き、いつも眠たそうな目をして、突き出た腹の上に両手を組み、両足を机の上に投げ出しただらしない恰好でニヤニヤ笑いを浮かべている男……』

(『黒死荘の殺人』より)

『禿げ頭が日光を受けてぴかぴか光り、眼鏡は大きな鼻の頭にずり落ちている。』『その顔に現れた人間離れした底意地の悪さは遠目にも見逃しようがない。』

(『貴婦人として死す』より)

ヘンリ・メリヴェール卿の活躍譚は長編短篇合わせて全部で24。初期作品では怪奇色が非常に強かったが、段々とそれは薄まっていき、中期では物語の要素として戦争が扱われるようになった(戦時下であったため)。また、ドタバタ喜劇の比率も増していった。今回扱う『貴婦人として死す』は丁度この中期の作品にあたる。後期では活劇や野球などが顔を出し、作品のエンターテイメント性がより一層高まった。

☆ポイント……サセックス、黒死荘の殺人、禿げ頭、眼鏡～、人間離れした～、怪奇色、ドタバタ喜劇、活劇や野球、エンターテイメント性

## ○『貴婦人として死す』

### ・あらすじ

「戦時下イギリスの片隅で一大醜聞が村人の耳目を集めた。俳優の卵と人妻が姿を消し、二日後に遺体となって打ち上げられたのだ。医師ルークは心中説を否定、二人は殺害されたのだと信じて犯人を捜すべく奮闘し、得られた情報を手記に綴っていく。やがて、警察に協力を要請されたヘンリ・メリヴェール卿とも行を共にするが……。張り巡らされた伏線を見事回収、本格趣味に満ちた巧緻な逸品。」(巻末あらすじより)

「犯人は足跡もなく逃走? 老医師が語る村の重大事件 車椅子のヘンリ・メリヴェール卿、憎まれ口を叩きつつ推理する」(帯より)

☆ポイント……手記、張り巡らされた伏線、犯人は～、車椅子のヘンリ・メリヴェール卿

### ・足跡トリックについて

トリック自体も優れているが、その使い方、ミスディレクションは特に神がかり的素晴らしさ。視点人物の利用。表紙による誤導。トリックを使ったのは誰か。

### ・非常に優れた”意外な犯人もの”ミステリ

『貴婦人として死す』において何よりも驚くべきものは真犯人の正体。視点人物の利用。手記という叙述形式の利用。犯人指摘の演出。巧みにばらまかれた伏線と犯人指摘に必要な情報。カー読者を陥れる罠。あらすじ、帯。

### ・この作品における戦争

アレックの不安要因。「心中」の原因。犯人指摘の演出。物語の終幕。

### ・貴婦人として死すの復刊について

ポケミス版、ハヤカワ文庫版が絶版になり、長らくこの傑作は入手困難となっていたが、偉大なる東京創元社による偉大なるカー新訳復刊事業によってついにお求めやすい価格で手軽に購入することができるようになった。

## ○カー問答について

江戸川乱歩『カー問答』……『続・幻影城』

松田道弘『続カー問答』……カー短編集『ヴァンパイアの塔』

松田道弘、瀬戸川猛資『続々カー問答』……『ハヤカワミステリマガジン1993/5』

二階堂黎人、芦辺拓『地上最大のカー問答』……『名探偵の肖像』

霞流一『初心者のためのカー入門』…… <http://urx.mobi/tq7A> (はてなブログ)

山口雅也『結カー問答』……『貴婦人として死す』